

承認	議長	副議長	事務局長	次長	合議	担当
					 	

様式第 1 号

令和 7 年 12 月 11 日

真庭市議会
議長 長尾 修 様

真庭市議会議員

吉原 啓介



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行うことについて届けますので、承認願います。

記

- 1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動
- 2 訪 問 先 ①株式会社 宝島社
②電源開発株式会社 (J-Power)
- 3 内 容 ①「田舎暮らしの本」読者層の移住意識の変化に関するヒアリング
②草本バイオマス燃料の実証に関する意見交換
- 4 行 程 別紙のとおり
- 5 事務局から訪問先への依頼 必要 ・ 不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



行程表

令和7年12月21日	移動日	14:00	岡山空港（※真庭→空港は自家用車）	ANA
		15:15	羽田空港	
		15:48	羽田空港第2ターミナル	東京モノレール
		16:26 16:32	浜松町	JR
		16:55	北浦和	
令和7年12月22日	移動	8:47	北浦和	JR
		9:16 9:22	上野	
		9:43	半蔵門	東京メトロ
	株式会社 宝島社	10:00～ 12:00	「田舎暮らしの本」読者層の移住意識の変化に関するヒアリング	
	移動	14:08	半蔵門	東京メトロ
		14:28	東銀座	
	電源開発株式会社	15:00～ 17:00	草本バイオマス燃料の実証に関する意見交換	
	移動	17:16	東銀座	東京メトロ
		17:18 17:25	新橋	JR
		18:01	北浦和	
令和7年12月23日	移動日	7:31	北浦和	JR
		8:15 8:20	浜松町	
		8:44	羽田空港第2ターミナル	東京モノレール
		10:05	羽田空港	ANA
		11:25	岡山空港（※空港→真庭は自家用車）	
※宿泊 さいたま市浦和区北浦和5-3-3 A-8				

報 告 書

令和 7 年 12 月 26 日

真庭市議会議長 長尾 修 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 吉原 啓介



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・~~研修会~~・~~要請陳情活動~~をいたしましたので、その結果を報告いたします。

記

1. 面談：株式会社宝島社（田舎暮らしの本）

(1) 日時

令和 7 年 12 月 22 日（月） 10 時～12 時

(2) 場所および相手方担当者

場 所：先方本社

（千代田区一番町 25）

担当者：「田舎暮らしの本」 XXXXXXXXXX 氏



(3) 意見交換内容等

【「田舎暮らしの本」について】

同誌は、1987 年創刊の“日本で唯一”の田舎暮らしを紹介する月刊誌。全国各地の物件や仕事の情報など、田舎暮らしに必要なハウツーを紹介。実際の移住者レポートを交え、田舎暮らしに役立つ具体的な情報を発信している。

【「住みたい田舎ベストランキング」について】

同誌が 2013 年 2 月号から毎年実施しているランキングで、来年で 14 回目を迎える。

移住定住の促進に積極的な市町村を対象に、移住支援策、医療、子育て、自然環境、就労支援、移住者数などを含む 300 を超える項目のアンケートを実施し、547 の市町村の回答からその自治体の暮らしの魅力を数値化し、ランキング形式で紹介している。

順位のカテゴリーとしては、総合部門、若者・単身世代部門、子育て世代部門、シニア世代部門に分かれており、年明け 1 月 5 日発売予定の 2 月号では 2026 年のランキングが発表される。

【アンケート結果からの真庭市の順位】

公表前なので、という前置きのもとに見せてもらった資料によれば、真庭市は全国 547 市町村の中で、総合部門 49 位、若者・単身世代部門 26

位、子育て世代部門 40 位であった。若い世代にとってのランキングが比較的高いにもかかわらず総合順位が落ちているのは、中高年世代部門が 79 位となっているため。

真庭市の制度・施策が若い世代向けに偏重していることがここから読み取れる。

一方、中国地方の市町村に限定すると、総合部門では 9 位、これは岡山県内の自治体では最も高い。各年世代別にみると、若者・単身世代部門が 7 位、子育て世代部門が 11 位、中高年世代部門は 13 位と、中国地方内に限って言えば部門別順位に全国統計での順位ほどの差はついていない。

中国地方全般に「中高年には冷たい」傾向があるのかもしれない。

人生のセカンドステージを充実したものとするため、いままで培ってきた自分のスキルを活かして地方での自己実現を目指してみたい、というニーズは確実に存在すると思われ、逆に、地方自治体にとってもそういう人材は有用なはず。

また、年金受給世代にとって、都市部での生活が経済的に厳しいのも事実であり、その面からも地方での生活は魅力と映るのでは。（厚生年金に長期間加入していてかつ標準報酬額が高かった年金受給世代は、住民税も払ってくれる。）

さらに、こういう見方には批判もあるかもしれないが、中高年は患者として病院経営を支える中心層でもあり、その点でも地域にとって大事な存在になりうる。

幅広い世代にライフワークバランスやある意味切実な経済的な面での切り口からの移住提案企画を検討してもいいのではないかな。

2. 面談：電源開発株式会社

(1) 日時

令和 7 年 12 月 22 日（月） 15 時 00 分～17 時 00 分

(2) 場所および相手方担当者

場 所：先方本社

（中央区銀座 6-15-1）

担当者：技術開発部 [] 氏

技術開発部 [] 氏

技術開発部研究開発室 [] 氏

(3) 内容

電源開発株式会社（J-Power）は、国内で複数の火力・水力発電所を保有しており、東電等の電力事業者に比肩するエネルギー事業者。

石炭を燃料とした火力発電所を保有していることから、総合的なカーボンニュートラルに向けた研究開発を積極的に進めており、バイオマス燃料研究についても担当しているのは火力発電の技術開発チーム。

【新しいバイオマス燃料作物の研究について】

日本のバイオマス発電施設で使用する燃料の大部分は輸入に頼ってお

り、少し古いデータにはなるが、令和 5 年度の日本の木質ペレット総供給量 596.2 万トンのうち国内生産量はわずか 2.7%にすぎない。

海外の森林資源を日本で燃やしてカーボンニュートラル、というのはそもそもおかしいのでは、というところから国内で新たな燃料用植物の研究がスタートした。

日本による海外の森林破壊が進んでしまう事態を回避するとともに、バイオマス発電の維持に向けた調達先多様化の観点から、あらたなバイオマス種として草本系エネルギー作物に着目し、その燃料化研究として栽培・加工・燃焼にかかる研究を実施している。

エネルギー作物とは、バイオ燃料の原料として栽培する農作物であり、草本系エネルギー作物としてはエリアンサス、ミスカンサス、ソルガム等、木本系エネルギー作物としてはコウヨウザン、ポプラ、ヤナギなどの早生樹がある。

草本系のうち、特にエリアンサスについて適性の高いものとして着目している。

【エリアンサスについて】

エリアンサスは、中東からインドにかけての地域原産のイネ科多年生植物で、熱帯原産であるにもかかわらず日本の気候でも越冬できる極めてまれな植物。

栽培可能地域北限は福島県あたりまでで、年間の気温データを見る限り、真庭市においても勝山より南であれば栽培可能と思われる。

この植物のメリットとしては、

- ・日本の気候では結実しないので、侵略植物としての脅威がない。
- ・単位面積当たりの収穫量として、30 トン/ha/年が期待できる
- ・多年生植物であり、栽培にかかる労力とエネルギー消費が非常に少ない
- ・早生樹と違い、農地への復元が容易

一方でデメリットとして、

- ・収穫時期が冬季の立ち枯れ後となるため、年間通じて利用するために貯蔵施設が必要となる
- ・3m を超える草丈があり、刈り取りに対応機械が必要

といったハード面での問題もあるが、これらは金があれば解決できることであり、最大の課題は、FIT 制度の対象となっておらず、現時点ではバイオマス発電施設で燃料として使うことはできないということ。

年明けに草本燃料による実証を行う予定だが、そのような事情により沖縄県うるま市の石炭火力発電所にて実施すること。

なお、エリアンサス等の資源作物の栽培実証、燃焼実証については令和 8 年度の農水省補助事業対象となっており、概要は以下のとおり。

①名称

みどりの食料システム戦略推進交付金のうち

地域循環型エネルギーシステム構築（科学技術振興事業）

②事業内容

荒廃農地等を活用した資源作物の栽培実証や、既存ボイラーによる燃焼実証等の取り組みを支援する。

（※募集時期は 12 月下旬から 1 月上旬とのことなので、今から関係部局等に提案しても間に合わないと思うが。）

一方、バイオマス発電燃料としての用途以外にも、畜産（肉用牛）の敷料の可能性も探っているとのこと。方向性がかなり変わる事となるが、耕作放棄地対策、または農地の荒廃防止の目的でこれらイネ科植物の栽培の有効性も検証してみたいということであった。（こちらからは、巨大な茅のような草姿であることから、例えばブドウ畑等での防草用の敷材（マルチ材）としての用途もあるのではないかとということも提案した。）

そのため、どのような圃場であれば良好な栽培ができるのか（特にエリアンサスは湿度に弱いため、水はけの悪い土地では生育が思わしくない、というデータもすでに得られている）、の検証も燃料資源としての活用と並行して進めていきたいとのことであった。

栽培技術を保有していて実証に取り組んでいる事業者は僅少であるため、あらためてそれらの事業者を紹介してもらい、チャンスがあればヒアリングにうかがうこととしたい。

以 上